

2012年8月13日

沖縄国際大学への米軍ヘリコプター墜落後、8年目を迎えて（声明）

沖縄国際大学
理事長・学長 大城 保

沖縄国際大学に米軍ヘリコプターが墜落して、今年で8年目になった。事件直後から、理不尽で悲惨な事件に対し米軍をはじめ関係諸機関に強く抗議し、飛行中止を求めてきた。しかし、未だ本学の上空を飛行し、問題解決がなされていない。普天間基地の閉鎖・返還を求めてきたにもかかわらず、取り巻く情勢は膠着が続く中で、MV 22 オスプレイの配備が進行し、危険性は増大する一方である。このような現状を憂い、ここに改めて、普天間基地を使用する航空機の即時飛行中止とともに、普天間基地の一日も早い閉鎖・返還を日米両政府をはじめ関係諸機関に要求する。

事件後、米軍関係者が陳謝し、政府関係者、政党関係者、その他多くの関係者が本学を訪れ、お見舞いを賜った。その際、「二度とこのような悲惨なことが起こらないように努力、協力する」とのことであった。しかし、多くの人々の抗議・要求をよそに、未だ本学上空を飛行しているのが現状である。しかも、その打開策が見えず、普天間基地の危険性が更に増大することは遺憾至極である。

大学は、もとより、静かな環境の中で勉学・研究をする場である。例え、いかなる国際政治論、安全保障論で飛行を正当化しても、大学の平穏・安寧を脅かし、生命すらも脅かす飛行は大学にとって認められるものではない。

「安全、安心、平和」は思想、信条を超えて万人の求めるところである。本学は、地域に根ざし、世界に開かれた大学として、地域と経験を共有しつつ連携して、「安全、安心、平和」のために、普天間基地を使用する航空機の即時飛行中止を強く求めると同時に、MV 22 オスプレイの配備に強く反対する。